

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな Asia時事フラッシュ

タイ中銀：据え置き期間に入る

◆ タイ中銀が政策金利を1年5か月ぶりに据え置き

▶ 11月29日のタイ中銀会合では政策金利を据え置き、22年8月からの連続利上げを休止した。以下は声明文の主な内容。

据え置きの理由 経済が潜在水準に向けて回復する中、インフレを継続的に目標レンジ内で維持し、長期的なマクロ金融の安定性を強化し、先行き不透明感に備えるために、現在の政策金利が十分であると判断し、据え置きを決定した。

経済見通し 2023年と2024年の成長率をそれぞれ2.4%、3.2%と予想。政府のデジタルウォレット(DW)政策(デジタルウォレットによる1万パーツ支給策)を考慮した場合、24年の成長率は3.8%に達する見通し。個人消費と雇用状況の改善が経済回復を主導しているが、中国経済の鈍化や世界的な電子機器への需要回復の遅れによって商品輸出と観光業の回復が予想より遅れている。将来を展望すると、観光業と商品輸出が回復するが、世界需要の構造変化が懸念材料。

物価見通し 総合インフレは目標レンジで留まる見込みで、23年と24年はそれぞれ1.3%、2.0%と予想。政府のデジタルウォレット(DW)政策を考慮した場合、総合インフレは24年に2.2%になる見通し。コアインフレは23年に1.3%、24年に1.2%になると予想。エルニーニョ現象による食品価格の上昇や中東情勢によるエネルギー価格の上昇の可能性を注視していく。

金融政策 インフレが目標レンジで安定推移すること、経済成長を支持すること、マクロ金融の安定性を確保する。現在の政策金利は長期の持続可能な成長を支援するために適切であると判断。今後の金融政策は経済成長見通しと物価見通しを考慮して決定する。

◆ ハト派の据え置きで様子見モードに入る

▶ 左下の表が示しているように、タイ中銀は23年、24年のGDP成長率とCPIを下方修正した。新たに発表された25年の予想ではGDP成長率とインフレ率は24年よりも鈍化する見込み。インフレ目標が達成される見通しの中、タイ中銀は徐々に景気支援を重視するに方向に舵を切っていると言えるだろう。実際、タイ中銀は金融環境に対して若干引き締めめになったが、基本的に経済回復の妨げにならないと評価しており、ややハト派姿勢を示した。実際、右下の実質政策金利を確認すると、近年の高水準となっている。政策委員会秘書のPiti氏が政策金利がしばらくの間、据え置かれると発言。タイ中銀は今までの金融政策の累積効果を見極めつつ、FRBの動向を注視するだろう。一方、来年5月に予定されているタイ政府のデジタルウォレット(DW)政策でタイ経済・物価に変化が生じる可能性が高いため、今後の注目材料になる。

◆ パーツへの影響

▶ 当面のパーツを展望すると、タイ中銀のハト派よりの姿勢はややパーツに不利になる可能性があるが、FRBのスタンスも軟化になったため、対ドルではもみ合う展開になりやすい。対円については、年末に向けて日銀の政策修正観測を背景に上値重く推移するだろう。

主要経済指標	タイ中銀予測				
	2023	2024		2025	
		DWを考慮	DWを考慮しない	DWを考慮	DWを考慮しない
GDP成長率(%)	2.4 ↓	3.8 ↓	3.2	2.8	3.1
2023年9月時点	2.8	4.4	-	-	-
CPI(%)	1.3 ↓	2.2 ↓	2.0	2.0	1.9
2023年9月時点	1.6	2.6	-	-	-
コアCPI(%)	1.3 ↓	1.5 ↓	1.2	1.4	1.3
2023年9月時点	1.4	2.0	-	-	-
商品輸出(%)	-1.5 ↑	4.3 ↑	4.3	3.3	3.3
2023年9月時点	-1.7	4.2	-	-	-
商品輸入(%)	-1.8 ↓	5.7 ↑	5.3	2.7	2.9
2023年9月時点	-0.1	4.1	-	-	-
外国観光客(万人)	2830 ↓	3450 ↓	3450	3900	3900
2023年9月時点	2850	3500	-	-	-

